

厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）  
「感染症危機対応医薬品等の利用可能性確保に関する研究」  
分担研究報告書

ナショナルデータベース（NDB）を用いた感染症危機対応医薬品等（MCM）の分析

研究分担者 森 由希子 京都大学医学部附属病院 講師

研究要旨

COVID-19 パンデミックでは、患者の爆発的な増加や減少を繰り返す中で、医薬品、医療機器や病床数、医療スタッフの確保が大きな課題となった。今後、重点感染症や新規感染症によるパンデミックに備えるにあたり、重点感染症の発生状況および医薬品、医療機器の使用状況を NDB データから分析し、パンデミック状況下においてリアルワールドデータの利用法と有用性について検討を行った。

**A. 研究目的**

COVID-19 パンデミックでは、患者の爆発的な増加や減少を繰り返す中で、医薬品、医療機器や病床数、医療スタッフの確保が大きな課題であった。今後重点感染症や新規感染症によるパンデミックに備えるにあたり、正確かつ、簡便・迅速に感染状況や医薬品、医療機器の必要量の把握および予測を行っていく必要がある。

本研究は、NDB 等の医療リアルワールドデータから、感染症の発生状況や医薬品、医療機器の使用状況を分析し、今後の方針決定に資する基礎データを作成するとともに、リアルワールドデータを用いた感染状況の分析の有用性について検討を行う。

**B. 研究方法**

COVID-19を対象に、発生状況、薬剤の使用動向、検査数、感染者数などレセプトで把握できるものについてNDBデータを用いて分析を行った。

さらに本研究班で重点感染症としてリスト化された疾患について、本邦における発生状況について分析を行った。また、NDBデータの補完として

他のデータベース（JMDC）との比較を行った。

（倫理面の配慮）

人を対象とした研究ではないため該当せず

**C. 研究結果**

本研究ではまず、COVID-19感染症関連病名を有するレセプトを対象に分析を実施した。レセプト上のCOVID-19発生数はHER-SYSによる公表データとほぼ同様の推移を認め、いわゆる第〇波についてもレセプトデータから再現可能であった。

また、年齢層別の患者数の推移についても集計を行った。医薬品の使用状況についても、研究班から指定された医薬品（ステロイド、解熱鎮痛薬等）を対象に分析を実施した。さらに重点感染症の本邦における発生状況についても集計を行った。（論文投稿準備中のため詳細データ未提示）

**D. 考察**

NDB データから COVID-19 パンデミック下における感染状況や医薬品の使用状況を明らかにした。患者数の推移に関する分析では、全例調査に基づいた公表データを NDB データからほぼ再現

できており、パンデミック下における医療需要について NDB データによる分析が有用である可能性が示唆された。

また、重点感染症の本邦における近年の受療状況についても明らかになった。レセプトデータの性質を踏まえたうえでの分析とはなるが、今後さらなる詳細分析を行うことにより、本邦における重点感染症によるパンデミックに対する医療需要推計が可能になることが期待される。

## E. 結論

今回 COVID-19 及び重点感染症の診療実態を明らかにし、課題を抽出した。今後、さらに具体的なデータ分析を行い、個々の課題に対する対応方策立案に資する資料作成を行う。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

該当なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし